

富山高専 第3期中期計画 / 平成29年度年度計画実施状況

※達成状況の評価は4段階評価で記載
 ◎：計画を着実に実施し、想定以上の成果が得られた
 ○：計画を概ね実施した
 △：計画をやや達成できなかった
 ×：計画を全く実施できなかった

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
<p>I 国民に対して提供するサービス その他の業務の質の向上に関する 目標を達成するために取るべき措 1 教育に関する事項</p> <p>(1) 入学者の確保</p>		(1) 入学者の確保		
<p>① ・志願者対策室、広報戦略室において、本校を広く理解してもらうために、中学校との信頼関係を構築し、連携を深める。 ・マスコミやホームページを通じ、広く社会に向けて富山高等専門学校の教育研究活動についてPRを行う。 ・英語版ホームページを開設して、全世界に向けた情報発信を行う。</p>	<p>副校長 校長特別補佐 教務主事 広報戦略室長 志願者対策室長</p>	<p>中学校校長、進路指導教員を高専に招き、本校における教育・研究の実状を見ていただき、その良さをPRする。同時に、中学校側の本校への要望を聞く機会を設ける。</p>	<p>6月6日に本郷キャンパス、6月22日に射水キャンパスで中学校進路指導担当教員を招き、学校見学会を開催し、概要説明、施設見学、学生による現状報告の後、本校への要望等について意見交換を行った。(参加:6月6日 16校、6月22日 21校) また、11月7日に射水キャンパスに県西部地区中学校校長を招き、高専改革に対する意見交換会を実施した。(11月7日 中学校長12名参加)校長が県内中学校(53校)を訪問し、中学校長と意見交換を行った。</p>	◎
		<p>在校生の保護者に対して、学校行事の報告、保護者からの要望を聞き、それを教育の改善に繋げる。以上の対策・努力を通じて、父兄の本高専への信頼と評価を高める。</p>	<p>広報誌「高専通信」を年3回発行し、学生・保護者に配付し、本校の取り組み、学校報告および各種大会における学生の活躍等を伝えている。校長はじめ、主事、専攻科長等によるメッセージを随時掲載し、教育や運営方針の周知と共有に努めている。 担任による保護者懇談会を実施し、学校への要望を聞いて、教育の改善を検討した。 保護者で構成する本校後援会の各行事(総会、理事会等)に校長、副校長、主事等が出席して校務報告や意見交換を行った。</p>	◎
		<p>志願者対策室が、県内中学校を2回以上訪問する中学校訪問の計画を立案・実行する。広報戦略室は、広報・志願者本部会議および入試委員会等のもつと増募対策方針に基づき、志願者対策用広報物を作成する。</p>	<p>志願者対策室と広報戦略室が連携して、中学生向けのPR冊子「カレッジガイド」および、チラシ「カレッジリーフレット」を編集し、県内各中学校に配布した。受験生や進路指導教諭等に、高専の魅力や特徴の重点をわかりやすく伝えるため、冊子の構成を見直すとともに、リーフレット配布時期の検討を行った。また、30年度入試について概要説明等を行った。 志願者対策として、富山県内の中学校訪問を企画している。また、県外中学校についても、石川県及び岐阜県北部の中学校(計 約100校)を対象として同様の取り組みを行っている。なお、訪問にあたっては、教員が単独又は各キャンパス1名ずつペアで協力の上、本校をPRすると共に入試方法・学科の特徴・卒業後の進路などについて詳細な説明を行っている。 29年度は2回の中学校訪問を計画・立案し、夏季中学校訪問を6月21日～8月21日に実施し、報告書をまとめ、校長・副校長・教務主事・広報戦略室・志願者対策室で共有した。秋季中学校訪問を10月10日～12月8日の期間で実施した。また、新たに中学校訪問実施要項を作成し、中学校訪問実施の有効性向上に努めた。 入試広報を含む入試業務が一元化されていないという課題への対応として、次年度からの組織改革について検討した。</p>	○
		<p>各部署との連携を強化し、公式Webサイトの充実を図り、中学生にとって有益となる情報を積極的に掲載する。</p>	<p>オープンキャンパス、公開講座、進学個別相談会等の開催情報のほか、入試に関する情報や学生生活に関する情報等、及び高専祭など中学生にとって有益な情報を各担当部署から提出いただき、迅速な発信に努めた。</p>	○
		<p>公式Webサイトの充実を図るため、アクセス状況等を調査し、効果的な情報発信を行う。</p>	<p>本校における行事、教職員や学生の受賞ニュースなどを迅速にWebサイトのトップページに掲載し、情報発信に努めた。 また、29年度は公式Webサイトの充実をさらに図るため、トップページから志願者向け情報を盛り込めるよう全面的にリニューアルを行うこととした。広報戦略室及び志願者対策室を中心として、公式Webサイトのリニューアル仕様策定及び選定等について検討を重ね、公募要領及び審査基準等について決定した。年度内に納品した。</p>	○
		<p>ニュースリリースなどによりマスコミを通じて本校の活動を積極的にPRする。</p>	<p>国際交流、公開講座、出前授業、高専祭その他の企画、教職員の活動状況等々について、テレビ、新聞、文教速報等で取り上げてもらうよう積極的にプレスリリースを行い、本校のPRに努めた。 (29年度は学校(教職員・学生を含む)の紹介関係:18件、教育関係:26件、研究関係11件、課外活動関係118件等、約173件の記事が新聞、テレビ等に掲載された。)</p>	○
		<p>海外へ効果的な情報発信を行うため、英語版のホームページや広報物の見直しを行う。</p>	<p>英語版のリニューアルにむけた検討を行っている。英語版概要は海外からの教員の招聘等の際に活用した。</p>	○

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
② ・入学説明会、体験入学、オープンキャンパス、公開講座、出前授業等、両キャンパスで行った取り組みを整理して、その成果を調査し、必要な改善を図る。 ・学校独自で行った事業についてホームページなどで意見収集を行う。 ・高等専門学校を卒業し産業界で活躍する女性の情報を収集し、女子中学生向けのパンフレットを作成する。	副校長 校長特別補佐 教務主事 広報戦略室長 志願者対策室長	在校生の父兄、地域住民、中学生を様々な機会を設けて高専に招き、在校生、卒業生の活躍状況をPRする。 入学説明会、学校見学会、公開講座、出前授業等の事業を積極的に展開し、効果的なPRのあり方や成果について検討する。	学校説明会およびオープンキャンパスを実施し、卒業生の進路状況等をPRした。 高専祭(志峰祭)において、進路相談コーナーを設けて、訪れた中学生への進学相談を行った。 地域住民へのPRとして、高専祭に招いて本校の案内を行う。また、11月に実施する避難訓練を視察願った。 学校見学会(6月6日 16校参加、6月22日 21校参加)、学校説明会(7月16、23、30日、3会場:参加者180人)、夏季オープンキャンパス(8月上旬:参加者670人)、秋季オープンキャンパス(11月3日、18日予定)、公開講座(8月下旬:10人)、学生募集説明会(10月:参加校55校)及び進学個別相談会(12月2日、9日予定)を積極的に実施し、オープンキャンパスには、夏季、秋季とも昨年とほぼ同程度の参加者があった。 その他、高専祭において学科展示等により各学科の紹介を行う予定。これらの実績を踏まえ、より効果的なPRのあり方や成果を検討した。	○
③ ・カレッジガイドをはじめとするパンフレットの配布箇所や活用内容について学内で調査を行い、有効に活用する方法について検討を行う。 ・広報戦略室および志願者対策室が中心となって、志願者対策上有効な広報資料を整理して、必要な資料を作成する。	副校長 校長特別補佐 教務主事 広報戦略室長 志願者対策室長	学校を紹介するカレッジガイド(志願者用)や学校要覧の更新を行うと同時に、効果的に配布して利活用を努める。 広報・志願者対策本部会議において戦略的広報活動及び志願者対策等を検討し、これに基づき、志願者対策室と広報戦略室が共同で、志願者対策上必要な資料を計画的に企画・作成してより効果的な志願者対策に努める。 志願者対策用の動画コンテンツの効果的な活用を図る。 これまでの広報の手段を検証し、新たな広報戦略を企画する。	志願者対策室と広報戦略室が連携してPR用広報資料である「カレッジガイド」や「カレッジリーフレット」等を作成し、両キャンパスの教員がペアを組み、中学校を訪問した際、本校の特徴や高専の魅力などについて説明する際に活用した。また、29年度より、「学校要覧」はより多くの人に閲覧してもらえるようWeb版とし、紙媒体での作成を取りやめることによって経費節減を行った。 引き続き、広報・志願者対策本部会議において、戦略的広報活動及び志願者対策の企画等を検討した結果、日本で唯一の国際ビジネス学科と海洋人材育成の商船学科に特化してPRするポスターを作成し、東日本圏及び西日本の都市部の中学校へ配布した。また、志願者対策室と広報戦略室が共同で、志願者対策上必要な資料を計画的に企画・作成(「カレッジガイド」や「カレッジリーフレット」等)し、より効果的な志願者対策に努めた。 教員が中学校訪問の際、ホームページに掲載した新しい動画を見ていただけるようPRし、夏季及び秋季オープンキャンパスや進学個別相談会で上映した。 学校説明会等において学校HPの志願者対策用の動画コンテンツの視聴を勧めた。 日本で唯一の国際ビジネス学科と海洋人材育成の商船学科を特化してPRするポスターを作成し、東日本圏及び西日本の都市部の中学校へ配布した。(再掲)	◎
④ ・中学校や地域社会の意見を幅広く収集して、十分な資質を持った入学者を確保できるようにする。	副校長 校長特別補佐 教務主事 志願者対策室長 入学試験委員会委員長	中学校校長、進路指導教員を高専に招き、本校における教育・研究の状況をPRするとともに、中学校サイドからの本校への要望を聞く機会を設ける。 機構本部と連携し、他高専と共同した遠隔地学力試験会場(最寄地受験)の実現について検討する。 入試について前年度実施の反省を踏まえ、さらに改善に努める。	6月6日に本郷キャンパス、6月22日に射水キャンパスで中学校進路指導担当教員を招き、学校見学会を開催し、概要説明、施設見学、学生による現状報告の後、本校への要望等について意見交換を行った。(参加:6/6 16校、6/22 21校) また、11月7日に射水キャンパスに県西部地区中学校校長を招き、高専改革に対する意見交換会を実施した。(中学校長12名参加)(再掲) 国際ビジネス学科、商船学科を中心に全国からの志願者増を図るため、30年度入試(29年度実施)から、学力検査による選抜において東京会場(東京海洋大学)を設け、先行実施している木更津高専と共同で実施した。(受験者7名) 前年度予測済みの学科の特性に合わせた推薦入試の基準の変更について、予定どおり実施した。 また、志願者確保、国際性を有するなど多様な学生を確保するため、30年度入試から帰国子女特別選抜を導入した。(合格者1名) 次年度から学力検査による選抜における調査書の取扱いについて、学習の記録以外の項目にも配点することを決定し、中学校訪問等で予告の説明を行った。	○
⑤ ・3倍以上の実質競争倍率(受験者数÷合格者数)を確保する。 ・学生に興味・関心を持たせる授業のあり方や、学力水準の維持のための取り組みを調査する。 ・各学科における教育活動の事例をホームページやパンフレットを使って広く公開をして、中学校や地域へアピールをする。 ・入学志願者を維持するための方法を検討し、志願者対策室が中心となって改善を行う。	副校長 校長特別補佐 教務主事 専攻科長 志願者対策室長	女子中学生向けの志願者確保に向けた取り組みとして、女子高専生の協力のもと作成した高専紹介冊子「高専女子百科 Jr.(富山高専版)」を、県内中学校訪問の際に配布し、本校の女子学生や教職員の状況等を積極的にPRする。	女子中学生の志願者数増に向けて、説明を強化している。 高専女子百科2013の内容をアレンジして高専機構本部が作成した「キラキラ高専ガールになろう！」(29年度版)を夏季中学校訪問、オープンキャンパス等を通じて中学生に配付し、高専女子学生の状況についてのPRを積極的に行った。中学校との意見交換会時に配付及び進学個別相談会でも配付した。	○

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
<p>・専攻科を積極的にアピールして、幅広い進路選択の可能性を中学校や地域社会に周知する。</p> <p>・高等専門学校を卒業し産業界で活躍する女性の情報を収集し、女子中学生向けのパンフレットを作成する。</p>		<p>志願者数の確保に引き続き努める。</p>	<p>29年度、新たに県内中学校校長義職訪問を8-9月に実施し、本校校長と志願者対策室長・副室長とで53校を訪問し、意見交換等を行った。志願者数の推移等の情報分析を積極的に行い、運営審議会や教員会議等で情報共有を行った。</p> <p>引き続き、本校主催のオープンキャンパスや学校説明会等で本校のPRに努めると共に、学習塾等の行う進学説明会へ積極的に出席し、本校の紹介・入試制度等の説明を行った。学校説明会およびオープンキャンパスを実施し、志願者数の確保に努めた。</p>	◎
		<p>数学や物理の高専統一試験の結果を分析して、補講など学力水準の維持等の対策を講じる。</p>	<p>30年1月に実施する学習到達度試験について、その結果を分析し、教務委員会等関係委員会で共通理解を得るとともに、来年度の教育内容の改善に反映させる予定である。</p>	○
		<p>志願者対策用動画コンテンツに学校活動を盛り込み、広報用DVDやホームページを積極的に活用して、中学校や地域へアピールする。</p>	<p>各中学校で開催される高校説明会や中学校訪問の際、ホームページに掲載した動画を見ていただくようPRし、夏季・秋季オープンキャンパスや進学個別相談会で上映した。学校説明会等において学校HPの志願者対策用の動画コンテンツの視聴を勧めた。</p>	○
		<p>本校に入学した学生に対し本校入試に対する意識調査を行い、対応を検討する。</p>	<p>学力検査時に行っているアンケートの集計・分析を行った。その結果、広報活動の効率や、志願理由についての定量的データが得られた。この結果を各種会議で取り上げ、情報の共有化を図り、今後の改善に繋げた。また、入学動機に関するアンケートを実施し、入学者に対する広報等の効果を分析した。</p>	○
		<p>本校入試制度の効率的な運用を検討し、受験者数の確保に努める。</p>	<p>入学辞退者数と入学者数の分析を行い、適正な入学者数確保及び各学科のアドミッションポリシーに対応する人材を入学させるために、前年度から実質的専願制へと入試方法を変更した。同時に受験者数を確保するために、各中学校にカレッジガイド、カレッジリーフレットを配布し、中学生及び進路指導教諭等に高専の魅力や特徴をわかりやすく具体的に紹介した。入試制度を再検討し、推薦入試評価基準の見直しを行った。また、調査書の評価基準も見直しの検討を行った。</p>	○
		<p>専攻科の認知度向上を図るパンフレットの配布やWebサイトの更新を行い、地域社会にアピールする。</p>	<p>ホームページに本校専攻科を紹介するパンフレットを公開し、地域社会に対して専攻科のアピールを行った。</p> <p>地域の企業が集まる会議、国際会議(本校主催1月18日～19日)、技術振興会総会(11月16日)、富山県ものづくり見本市(10月27日)などにおいて、本校専攻科生による研究発表・海外インターンシップ報告を行い、専攻科の取り組みの紹介や専攻科生の能力が高いことを企業にアピールした。</p> <p>海外インターンシップ報告会(10月13日、11月14日)を29年度から外部公開とし、プレスリリースを行った。</p>	○
<p>(2)教育課程の編成等</p> <p>①</p> <p>・高度化高専としての教育課程の改善に向けた検討を行う。</p> <p>・学科構成や新分野の学科の在り方、専攻科の整備・充実等の新たな進むべき道についても適切な検討を進める。</p>	<p>教務主事 専攻科長</p>	<p>新教育課程の点検を行い、必要な見直しを図る。</p>	<p>教務委員会やカリキュラムに関するWGにおいて、カリキュラムの検討を行った。制御情報システム工学専攻は、29年度のJABEE中間審査に合わせて、自己点検書を作成した。</p>	○
<p>社会の変化に対応した学科、並びに専攻科のあり方を検討する。</p>	<p>教務委員会やカリキュラムに関するWGにおいて、カリキュラムの検討を行った。</p> <p>昨年度から、専攻科1年生対象の「地域産業学」を新設し、修了単位数に含まない自由単位として開講した。富山県機械工業会との協力の下で地域産業の理解のために非常に重要な科目と考え、29年度からは選択科目に変更して開講している。</p> <p>地域産業界との協働教育の一環として、富山高専技術振興会総会(11月16日)において、専攻科生(11名)に各自の研究成果の発表を行わせ、企業の方々との連携を図った。</p> <p>研究推進モデル校として本校が開催するセミナーにおいて、本校専攻科生が英語によるポスター発表を行った(1月19日)。グローバル化に対応した取り組みとして重視している。</p>	○		
<p>②</p> <p>・教育課程における基幹的な科目である「数学」、「物理」、「英語」について、学習到達度試験やTOEIC等の検定試験などを活用した教育課程の改善に努める。</p>	<p>教務主事 専攻科長 自己点検評価委員会 委員長</p>	<p>「数学」と「物理」の学習到達度試験を実施し、その結果を分析し強み、弱みを把握することにより、必要な改善を行う。</p>	<p>30年1月に実施する学習到達度試験について、その結果を分析し、教務委員会等関係委員会で共通理解を得るとともに、今後の教育内容の改善に反映させる予定である。</p>	○
<p>TOEIC等の検定試験の受検を積極的に推奨し、本科生及び専攻科生を対象としたTOEIC対策講座を昨年度に引き続き企画する。</p>	<p>引き続き、後援会と連携を図り、本科4年生並びに専攻科1年生を対象に、TOEIC受験の促進を図った。</p>	○		

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
		自己点検評価委員会等において学習到達度試験や英語検定試験などによる客観的なデータに基づいた点検評価の実施方法について継続的に検討する。	30年1月に実施する学習到達度試験について、その結果を分析し、教務委員会等関係委員会で共通理解を得るとともに、今後の教育内容の改善に反映させる予定である。	○
		専攻科において、一部の授業において英語による授業、あるいは英語コンテンツを利用した授業を行っている。今後、英語授業の割合が増えるようさらに工夫していく。	平成28年度までに高専機構「英語力向上取り組みに関する事業」を3年間にわたり実施し、本校専攻科の30の講義に関する英語コンテンツを作成し、活用している。 専攻科の一部で、MITビデオ講座の英語教材を活用した授業や、北アイルランド、South Eastern Regional Collegeの学生と連携した実験実習を実施した。 本校主催のセミナーにおいて専攻科生にポスターを英語で作成し発表する教育機会として活用した(1/19)。 例年実施しているJoint CAST専攻科生による英語プレゼンも、11月29日に熊本高専、豊田高専とTV会議で接続して実施予定した。	○
③	教務主事 FD委員会委員長 教務委員会委員長	学生授業評価アンケートを実施し、FD委員会や教務委員会で資料の活用方法について検討する。	前後期の2回、学生による授業評価アンケートを実施している。アンケートの全体的な集計結果に基づき、FD委員会や教務委員会で授業改善に向けた意見交換を行い、各個別データについては所属学科長を通じ教員へフィードバックし、学科内で改善点について話し合いを行った。	○
		教員相互のピアレビューを実施し、結果に基づき、今後の教育改善を図る。また、教員による、キャンパスを超えた授業見学を積極的に推進する。	教員相互のピアレビューを実施(前後学期2回)して、授業実施者の自己評価・改善を基にして議論した。また、教員にはキャンパスを超えて授業見学するように奨励した。参観結果については授業担当教員へフィードバックし、改善点等について学科長に提出して教育改善を図った。	○
		学生のニーズ等を調査し、教育改善・将来構想の検討を行う。	学級担任を通じて学生のニーズ把握に努めている。	
④	教務主事 学生主事	以下の全国的なコンテストへの参加を推奨し、支援し、学生の自立、創造性の発揮を全校的な規模にすることを図る。また、その他の全国的なコンテストにも積極的に参加を推奨する。 A「全国高等専門学校体育大会」 B「全国高等専門学校ロボットコンテスト」 C「全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト」 D「全国高等専門学校プログラミングコンテスト」	クラブ顧問、コーチ等による熱心な指導により、多数の学生が全国大会への進出を果たし好成績を収めている。昨年度に引き続きロボットコンテスト出場チームには特命フェローを配置し、学生からの相談に対応できる指導体制を整備している。また、運動部学生に対し、AED説明会、熱中症対策講座を開講し、安全なクラブ活動を支援した。 A: 全国高等専門学校体育大会において個人の部で水泳競技、陸上競技で優勝、柔道男子90kg級で2位、女子63kg級で3位等好成績を収めた。団体の部では陸上競技(男子)、陸上競技(女子)、バスケット(男子)が、全国3位の成績を収めた。 B: 東海北陸地区大会において、本郷キャンパスAチームが準優勝し「審査員推薦チーム」に選ばれ全国大会に出場する。 C: 英語プレゼンテーションコンテストについては、校内選考により2名が11月開催の東海北陸地区予選へ出場する。また、中国語スピーチコンテストにおいて、県代表として射水Cから3名が全国大会へ出場予定である。 その他: 全国高専将棋大会女子個人戦優勝となった。本郷キャンパスメカテック部が、WRO Japan決勝大会で3位となり、国際大会に出場した。	○
⑤	教務主事 学生主事	学生に対し、合宿研修、特別教育活動、同好会活動などの学内外の体験活動(ボランティア、社会奉仕、自然体験)への積極的な参加を推奨する。また、学生会等の活動を支援し、学生の自主、自律の涵養を図る。	1年生合宿研修を5月9日～10日(1泊2日)を「国立能登青少年交流の家」で実施した。工学系学科、文化系学科、商船系学科と異なる分野の学生がキャンパス・学科の壁を越えて、レクリエーション行事等の計画作りを通じて、学生同士の交流が図れ、キャンパス相互の絆を強くし友情を深めることができた。また、クラス単位での活動を通して、クラスの結束を深め、教員との信頼関係を築き、これからの高専生活を充実したものにしていく基盤作りとなった。 射水キャンパスでは、ボランティア活動として、学生会が射水市が主催する学生のまちづくり推進会議学生会議に学生委員として参画し、本会議が主催する政策提案コンテストの運営に協力した。 また、社会奉仕活動としては、学年行事として海浜清掃を、6月に3年生が、10月に2年生が実施した。	○
(3)優れた教員の確保		採用教員を育てるための学内インターンシップ制を実施する。必要に応じて、研究指導のために、優れた人格と研究業績を有する教員などを採用する。	新任教員のメンターに、研究指導に優れた教員を配置した。 優れた人格と教育・研究業績を有する高校、及び大学を定年退職した教員を特命フェローとして採用した。	○
①	校長	・公募制などにより、博士の学位を有する者や民間企業で実績をあげた者など優れた教育力を有する人材を教員として採用する。 ・多様な背景を持つ教員組織とするため、教授及び准教授については、他機関や海外での勤務経験者比率を90%以上になるようにする。		○

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・岡キヤンパスのスケジュールメリットを生かした人事を行う。 ・教員の人事交流を積極的に進め、他機関での経験を有する教員の増加に努める。 		<p>教員採用にあたっては優秀な学生を修士取得段階で本校に採用し、社会人入学制度を利用して博士の学位を取得させ、優秀な人材の確保に努める。</p>	<p>教員公募を行う際には、県内大学へ赴き、専門学科においては、博士号が未取得でも、採用後3年以内での博士号取得という本校の応募条件を説明して教員公募を案内し、大学院修士課程の学生からの応募を呼び掛けることとしている。</p>	○
		<p>教員採用にあたっては公募を原則に、博士の学位を有する者、並びに他の研究機関、民間企業で実績をあげた者など、優れた教育・研究力を有する人材を教員として採用する。</p>	<p>公募制を原則として、博士の学位を有する者や他の教育研究機関等で実績をあげた者など優れた教育・研究力を有する人材を教員として採用することとしている。</p> <p>民間企業での業績を評価するよう、教員選考基準を策定している。</p>	○
		<p>多様な背景を持つ教員組織とするため、教授及び准教授については、他機関や海外での勤務経験者比率を90%になるよう推進する。</p>	<p>教員採用に当たり、公募を原則に、女性教員の採用、並びに多様な背景を持つ教員組織とすることを念頭において選考を進めた。また、教授及び准教授については、他機関や海外での勤務経験者比率を90%になるよう推進するために、国内外の研究機関等に派遣した。</p>	○
		<p>教員の海外研修、近隣大学との教育・研究交流を積極的に進め、他機関での経験を有する教員の増加に努める。</p>	<p>本校独自の派遣制度である教員海外短期派遣制度により教員を2名を派遣した。</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ② ・高専・両技科大間教員交流制度を利用して、教員の交流を推進する。 ・高専・両技科大で、学生の継続した研究指導を行うための協議を行う。 ・技科大との継続した教育環境を実現するために、本科や専攻科のカリキュラムの改善を図る。 ・大学、企業などとの任期を付した人事交流を図る。 	<p>校長 イノベーションセンター長</p>	<p>近隣大学との教育・研究交流、並びに人事交流を積極的に進め、多様な経験と優れた教育・研究業績を有する教員を育てる。</p>	<p>研究高度化推進室の事業と連携し、第3ブロック高専との研究連携等を進めている。その成果の一部は30年1月18日、19日開催の研究推進フォーラムで発表した。</p> <p>富山県の地域産業に密着した教育プログラムとして、「次世代スーパエンジニア養成コース」を富山大学と本校の共同主催で実施している。教育プログラムの作成に当たっては、地域産業界の意見を取り込みつつ、講師の派遣などを通じて地域総がかりの技術者を育成する事業の一端を担っている。</p> <p>富山大学を中心にコンソーシアム富山の連携大学が加わって申請したCOG+が採択され、事業活動を実施している。今後、コンソーシアム富山における教員間の教育・研究交流の強化が期待できる。</p>	○
		<p>教育研究面で長岡、豊橋技科大学との連携を図る。</p>	<p>長岡、豊橋両技術科学大学との交流会に本校教員を派遣した。</p> <p>大学コンソーシアム富山の事業に参画し、県内機関の単位互換授業等の企画に参画した。</p>	◎
		<p>長岡技術科学大学と連携して行うアドバンスコース事業を推進して、教育改善を図る。</p>	<p>長岡技科大学部3・4年生対象の「地域産業と国際化」等の授業に協力している。</p>	○
		<p>高専と両技科大間との教員交流制度を利用して、引き続き、教員の交流を推進する。</p>	<p>長岡、豊橋両技術科学大学との交流会に本校教員を派遣した。(再掲)</p>	◎
		<p>三機関連携プロジェクトを利用して、教員の教育研究交流を推進する。</p>	<p>三機関連携プロジェクトを活用し、全国高専フォーラムにおいてセッションのオーガナイズに、両技科大と連携して本校教員が貢献した。</p>	◎
<ul style="list-style-type: none"> ③ ・専門科目担当の教員については、博士の学位や職業上の高度の資格を持つ者の比率を90%以上とする。 ・一般科目担当の教員については、修士以上の学位や高度な実務能力を持つ者の比率を90%以上とする。 ・幅広い教育分野を実施できるよう、近隣大学博士課程への社会人入学制度、並びに内地研修を活用して、各教員に必要な資格の習得を促進する。 	<p>校長</p>	<p>教員採用にあたっては、近隣大学において優秀な学生を修士取得段階で本校に採用し、社会人入学制度を利用して博士の学位を取得させ、優秀な人材の確保に努める。</p>	<p>教員公募を行う際には、県内大学へ赴き、専門学科においては、博士号が未取得でも、採用後3年以内での博士号取得という本校の応募条件を説明して教員公募を案内し、大学院修士課程の学生からの応募を呼び掛けることとしている。</p>	○
		<p>博士課程への社会人入学制度、並びに内地研修を利用して、学位など高度な資格取得を引き続き勧める。</p>	<p>博士号未取得者に対し富山大学博士課程への社会人入学を推奨し、博士号取得と他大学における研究実施の経験を推進している。</p>	○
		<p>教員の採用にあたっては、引き続き公募を原則として、応募資格を原則博士の学位取得者とするなど優秀な教員の確保に努める。</p>	<p>教員の採用にあたっては、引き続き公募を原則として、応募資格を原則博士の学位取得者とするなど優秀な教員の確保に努めることとしている。</p> <p>専門科目等担当教員の博士(技術士を含む)の学位を有する割合 80%(86名/108名)</p>	○
<ul style="list-style-type: none"> ④ ・女性教員の増加を進めるための環境整備を進める。 ・専門学科での女性教員確保に努める。 ・女性教員に高専を理解してもらうための資料作りを行う。 	<p>校長 スマイル・アップ推進委員会委員長</p>	<p>教員を公募する際には、県内大学へ赴き、修士取得以上という本校の応募条件を説明して教員公募を案内し、大学院生からの公募を呼び掛ける。</p>	<p>教員公募を行う際には、県内大学へ赴き、専門学科においては、博士号が未取得でも、採用後3年以内での博士号取得という本校の応募条件を説明して教員公募を案内し、大学院修士課程の学生からの応募を呼び掛けることとしている。</p>	○
		<p>女性教員に高専を理解してもらうためのホームページにより、外部にアピールする。</p>	<p>スマイル・アップ推進委員会を中心に、HPに本校の女性比率の状況等を継続して掲載した。</p>	○
		<p>専門学科での女性教員確保に努める。</p>	<p>教員採用に当たり、女性教員の採用、並びに多様な背景を持つ教員組織とすることを念頭において選考を進めた。</p>	○
		<p>スマイル・アップ推進委員会を中心に、女性教員の増加を進めるための環境整備を行う。</p>	<p>スマイル・アップ推進委員会を中心に教職員ミーティングを開催して、環境整備などについて議論を行った。</p>	○
		<p>女子大学院生に高専を体験してもらう事業を通して、高専の教育研究環境の広報を行う。</p>	<p>女子大学院生に高専を体験してもらう事業を公募し、高専の教育研究環境の広報を行っている。近隣大学との連携のもとに、女子大学院生に対し、本校におけるインターンシップの体験を呼びかけ、1名を受け入れた。</p> <p>また、女子大学院生に限定していた受入を女子大学生(原則3年生以上)までに範囲を広げた。</p>	○

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
⑤ ・両キャンパス合同で、教員の能力向上を目的としたFD研修会を積極的に企画実施する。 ・クラス経営・生活指導における教員研修や、管理職研修など、外部で開催されている企画事業に積極的に参加する。 ・外部で開催されている教員研修の案内を学内で周知する。 ・一般科目や新規採用の教員担当科目における授業研究会を開催する。	FD委員会委員長	両キャンパス合同で、企業等を利用したFD研修会を積極的に企画実施し、教員の能力向上をめざす。	9月21日には射水キャンパスにおいて3月20日には本郷キャンパスでFD研修会を行った。12月には両キャンパス合同で、FD研修会を開催して、授業の質の向上を図った。	◎
		クラス経営・生活指導における教員研修や、管理職研修など、外部で開催されている企画事業に積極的に参加する。	新任教員研修をはじめ各種研修に参加させた。	○
		外部で開催される研修会の学内周知を図り、積極的な参加を推奨する。	外部で開催されている教員研修を教員に周知し、研修会への参加を促した。	○
⑥ ・学生アンケートや業績に基づいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。 ・FD研修会において、教育業績や研究業績を持つ教員の講演会を行う。	校長 FD委員会委員長	学生アンケートや業績に基づいて、顕著な功績が認められる教員や教員グループを表彰する。	毎年、学生による授業評価アンケートを抽出した科目について前後期末試験後に実施し、9月及び翌年度4月末に学科長等へ通知する。	○
		FD委員会において、教育業績や研究業績を持つ教員等の講演を実施し、両キャンパスの教員が参加可能なFD研修会を引き続き開催する。	教員相互のピアレビューを実施(前学期)して、授業実施者の自己評価・改善を基にして議論した。また、教員にはキャンパスを超えて授業見学するように奨励した。参観結果については授業担当教員へフィードバックし、改善点等について学科長に提出して教育改善を図った。	○
		教員のキャリアパス形成のために、教育、研究、地域貢献、学内管理等の項目に従ったポートフォリオを作成し、それに基づいた自己評価システムを実施することにより教員の評価指標を確立する。	教員の教育、研究、地域貢献、学内管理等の項目に従ったポートフォリオを作成し、年間の計画を立てることができるようになった。また教員の評価指標に活用する。	○
⑦ ・国内外の研究機関へ教員を派遣し、学位取得や教育研究面での能力向上を推進する。 ・教員への国内・国際学会等への参加を推奨する。	校長	教員の国内・国際学会等への参加を促進する。本校が主催となり国際会議を開催し、本校の教員の参加を促す。また、高専機構が主催する国際学会への積極的な投稿、参加を促す。	教員の国内・国際学会等への参加を促進している。 ISATE2017等へ教員2名が出席した。	○
		教員の海外、及び内地研修、並びに博士課程への社会人入学を進め、学位取得や教育研究面での能力向上を図る。	本校独自の教員海外派遣制度に基づき、若手教員2名を学術交流協定校へ派遣し、海外経験を積ませて、研究能力向上を図る。 本校独自の教員短期研修制度に基づき国内大学機関へ1名の研修派遣を行った。	○
(4)教育の質の向上及び改善のためのシステム				
① ・高度化高専としての教育課程の改善に向けた検討を行う。 ・富山高等専門学校の地域性、学科構成等の特性を生かした教育方法の開発を図る。	教務主事 教務委員会委員長	物理、化学の授業に実験を積極的に取り込み、学生の興味を喚起する。	工学系4学科においては、平成27年度入学生から引き続き、カリキュラムに基礎科学実験を組み込み、実験の機会を増やしている。	○
		本科の卒業研究、専攻科における特別研究の内容を見直し、実施方法を改善し、学生の問題解決力、コミュニケーション力、積極性の向上を図る。	学生に、学会発表や海外インターンシップの経験を積極的に積ませて、問題解決力とコミュニケーション力、積極性の向上を図った。 本校後援会と連携し、本科5年生及び専攻科学生に対し、学会発表に伴う旅費を補助した。	○
		引き続き、モデルコアカリキュラムの導入に向けての準備を進める。	30年2月を目標としてモデルコアカリキュラムを準拠したシラバスの作成を目指した。 H30MCCに対応したWebシラバスを導入した。	○
② ・実践的技術者養成の一環として、在学中の資格取得を勧める。 ・工学系専攻科の保有しているJABEE認定を維持、更新し、教育の質の向上に努める。	教務主事 FD委員会教育改善専門部会長	新カリキュラムに合わせた資格取得を勧める。	一定の資格を取得した場合には、本校以外での学修として単位認定できることを定めている。また、試験会場として校内施設を提供することにより、受験生への便宜を図った。	○
		FD委員会教育改善専門部会において、エコデザイン工学専攻と制御情報システム工学専攻のJABEEプログラムの各項目について点検確認を行う。	関係する学科との連携のもとにJABEEプログラムの各項目について点検確認を実施した。	○
③ ・中部日本海高専間などの学校の枠を超えた学生の交流活動を企画、推進する。	副校長 学生主事 国際交流センター長 商船学科長	他高専と協力して東南アジアからの短期留学生の共同受け入れなどを推進する。	6月5日から7月28日の間、タイキングモック工科大学からの短期留学生16名を受入れた。 9月11日に実施された中部日本海高専国際化推進委員会に教員2名、事務1名が出席した。	○
		商船学科を有する五高専間の交流事業を実施すると同時に、必要な教材等を開発し、教育方法の改善を図る。	商船学科を有する五高専の学生主事会議で、各校の厚生補導について情報交換を行った。	
			全国の商船学科を有する高専間で実施している、「国立高専における次世代の海洋人材の育成に関する取り組み-海への理解促進と高専が担う次世代の海洋人材の育成-」において、富山高専が主担当として実施している「次世代海人材育成システムの構築」プロジェクトの「教科教材の充実」サブプロジェクトで実施している。29年度は改訂も含めて4冊の新たな教科書の執筆を進めた。	○
		「大学コンソーシアム富山」実施事業への参加等を通して富山県内大学等の交流を促進する。	大学コンソーシアム富山主催の大学等リーダー研修会が本校を主管校として実施し、学生会役員及び本校教員が多数参加した。 大学コンソーシアム富山実施の合同企業訪問に本校から学生が参加した。 大学コンソーシアム富山実施の単位互換認定を行った。 「大学コンソーシアム富山」大学等リーダー研修会(6/24-25)への参加を通して富山県内大学等の交流を行った。	○
④ ・総合データベースを活用して、優れた教育実践例を収集・公表し、FD研修会などで情報共有を図る。 ・国内外の教育機関における優れた教育実	教務主事 国際交流センター長 FD委員会委員長	FD委員会が中心となり、優れた教育実践例を教員間で共有する。	両キャンパス合同で、企業等を利用したFD研修会を積極的に企画実施し、教員の能力向上をめざした。	○

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
<p>実践の収集と整理に努め、教育方法の改善を促進する。</p>		<p>高専改革推進経費等の教育推進事業を通して、学習教材の開発や学習プログラムの構築を行う。</p>	<p>協定締結校であり、アクティブラーニングに関する先進的な取り組みを行っている英国北アイルランドSERCとの共同事業を通じてアクティブラーニングに関する情報交換を行った。またハワイ大学カウアイコミュニティカレッジの遠隔授業について、調査を行った。</p>	○
<p>⑤ ・大学評価・学位授与機構による認証評価に適合する教育課程とする。</p>	<p>自己点検評価委員会委員長</p>	<p>自己点検評価委員会のもとで、自己評価、並びに第三者評価に関する機関別認証評価受審委員会を開き、評価、改善を積極的に推進する。</p>	<p>自己点検評価委員会を開催し、教育・研究等諸項目に関する点検・評価と改善を計画的に進めた。また、28年度に機関別認証評価の受審し、その内容に基づき改善等を行った。</p>	○
<p>⑥ ・インターンシップの取組を、商船学科の学生を除き、8割の学生が卒業までに参加できるように、積極的に推進する。 ・地域産業界と連携した「共同教育」を推進する。</p>	<p>教務主事 専攻科長</p>	<p>本校学生のための教育カリキュラムについて、企業と本校とが協働して検討し、授業として実施する。</p>	<p>富山県機電工業会との協力の下、28年度より「地域産業学」を新規開講し、機電工業会に加入している企業担当者による講義を専攻科1年生に聴講させた。29年度は単位を自由単位から選択単位に変更し、学生に履修を促した。また、エコデザイン工学専攻1年生の「ロボット工学特論」では、毎回、産業界でロボットの設計やデバイスの開発などに従事している企業の専門家を講師として招き、実物の装置に触れられるように実習装置などを使用した授業を行った。また、国際ビジネス専攻の「環日本海ビジネス演習」では、環日本海ビジネス現場に関わる企業への工場見学と講演を組み込んだ授業を行った。その他の科目においても、単発的に、企業の方をお招きすることも多く、企業と本校が協働した授業を実施した。</p>	○
		<p>富山高専技術振興会会員企業等へのインターンシップを促進するために、参加学生の支援を行う。</p>	<p>富山高専技術振興会企業等の国内工場や海外工場へのインターンシップについて次年度以降も継続して促進していくため、学生と企業とのマッチング作業、事前研修、就業体験期間中における教員による視察、就業後の成果発表等の支援を行った。</p>	○
		<p>就労体験を取り入れた専攻科用の海外インターンシッププログラムの環境整備を行い試行する。</p>	<p>県内企業(株式会社アイベック)より、専攻科生の海外渡航に関する奨学金を頂く制度を開始した。29年度はエコデザイン工学専攻、国際ビジネス専攻から各1名の学生が20万円の奨学金をそれぞれ受給した。</p> <p>エコデザイン工学専攻では、海外インターンシップ参加学生に対する渡航費用の助成を行った。国別の参加学生は、韓国:1名、タイ:8名、マレーシア:2名、ハンガリー:4名、北アイルランド:3名であった。</p> <p>制御情報システム工学専攻および国際ビジネス専攻では、昨年度は国際インターンシップへの参加がほとんどなかったが、29年度は指導教員の協力支援のもとで、地域企業等のインターンシップに4名が参加した。また、これまで3週間以上のインターンシップのみを単位認定対象としていたが、短期での単位認定も可能となるように運用規則を改定した。</p> <p>制御情報システム工学専攻および国際ビジネス専攻においても、海外インターンシップ参加の専攻科生に対して後援会から渡航費用の助成を継続して実施した。その他、保険を含む参加時の学生支援が整備されている。国別の参加者は、北アイルランド:4名、シンガポール:1名である。</p>	○
		<p>海外インターンシップの事前学習のための環境を整備する。</p>	<p>国際交流センターにより海外インターンシップ派遣時の危機管理マニュアルが作成され、それに則って学生指導を実施した。</p> <p>エコデザイン工学専攻では、海外インターンシップ先に滞在中の危機管理サービス(OSSMA)への入会も含め、担当教員ならびに国際交流センターが、事前学習の機会を数多く提供している。また、企業によっては、該当する学生を事前に国内の親会社へ訪問させ、担当社員から話を聞くなど、インターンシップの効果をより高める環境を整備した。制御情報システム工学専攻および国際ビジネス専攻では、科目担当教員ならびに国際教育センター員による事前学習や、昨年度の参加学生による体験紹介などを実施している。また同様にOSSMAへ入会と危機時の連絡方法等の説明を行っている。</p> <p>更に、海外インターンシップ参加への経費支援を兼ねた教育面での強化のために、文科省トビタテ！留学JAPANへの応募説明会を実施し、学習課題の設定と応募書類作成を通じた事前学習に際して助言を行う等、支援環境を整備した。</p>	○
		<p>専攻科生が、海外インターンシップに参加しやすいようにするため、新学科対応の専攻科カリキュラムを検討する。</p>	<p>専攻科カリキュラムにおいてインターンシップの単位を平成27年度からインターンシップA(国内)、インターンシップB(海外)にわけ、選択科目として扱っており、引き続き検討を進める。</p>	○
<p>⑦ ・退職技術者を含む企業人材を活用した教育を積極的に進める。</p>	<p>ソリューションセンター長</p>	<p>企業人材(客員教授、コーディネーター、シニアフェローなど)を活用した教育改善を実施する。</p>	<p>シニアフェローを新たに13名委嘱し、授業や発表会等への支援を行う等、本校の教育のために活躍いただいた。</p>	○

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
⑧ ・学生の教育課程、教員の教育研究などの複数の視点から、他大学や技科大との有機的な連携の強化を進める。	校長	他大学や海外の高等教育機関とも連携を取り、教員の共同研究や、学生の研究力・語学力の向上を進める。 本科と専攻科と技術科学大学との連携した教育カリキュラムについて協議を進める。 長岡技科大と連携したアドバンスコース事業を、両キャンパスの教員が協力して進め、高い効果が得られるように努力する。 他大学、技科大と商船学科・国際ビジネス学科の進学促進のために、出前授業を引き続き実施する。	KMITL(タイ)の学生を短期留学生として受け入れ、学生交流を促進した。 本校教員を海外高等教育機関へ派遣するための制度に基づき、教員の海外経験を推進し、2名の教員を派遣した。 本科と専攻科と技術科学大学との連携した教育カリキュラムについて、長岡、豊橋両技術科学大学と引き続き協議した。 長岡技術科学大学学部3、4年生の授業を通じて、両キャンパスの教員が協力して進めた。 商船学科・国際ビジネス学科の進学促進のための、技科大の出前授業を実施した。本校と富山大学との間に包括交流協定を締結し、本校専攻科学生が同大の文系、理系、医薬系、芸術系を含めた大学院への多様な進路を選択できるようにした。	○ ○ ○ ○
⑨ ・インターネットを活用したICT活用教育の取組を充実させる。	教務主事 図書館情報センター長	eラーニングやICT活用教育ができるように環境を整備し、教育環境の向上を図る。	CBTトライアル試験を行い、ICT活用教育の環境整備を進めた。 あいの風会館にコンテンツスタジオを整備し、教育環境の向上を図った。	○
(5) 学生支援・生活支援等				
① ・中学校卒業直後の学生を受け入れ、かつ、相当数の学生が寄宿舎生活を送っている特性を踏まえ、メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援を充実させる。 A. メンタルヘルスを含めた学生支援のための講習会を教職員向けに実施する。 B. メンタルヘルスを含めた学生支援・生活支援の講習会に教職員を参加させる。 C. 学生や保護者が相談しやすい学生相談体制を整備する。 D. 福利厚生施設等の学生の生活環境の充実を図る。	学生主事 学生相談室長 特別支援教育室長	メンタルヘルスに関する各種アンケートを実施し、学生支援の情報を提供する。 特別な支援が必要な学生に対して、支援体制を整える。	本郷キャンパス 前期6月～7月に1～3年生を対象にhyper-QUアンケート、4年生以上にはEQSアンケートを実施した。 後期11月～12月に全学年対象に「こころと体の健康調査」を実施した。アンケート結果は、学生支援の情報として担任及び学生相談室において学生個人の面談資料として活用し、検査結果によっては相談室員、カウンセラーとの面談を実施した。後期にいじめに関するアンケートを実施し、回答内容に対する対応を行った。 射水キャンパス 4月に「こころと体の健康調査」を実施し、緊急度の高い学生の普段の様子を担任に注意して観察してもらうようにし、必要に応じてカウンセリングにつなげるなどした。さらに夏休み明けの9月に1～3年生に対してhyper-QUアンケートを実施し、後期のクラス運営などに有効に活用してもらい、必要に応じて担任・学科長・学年主任・相談室と連携した個別対応を依頼した。4、5年生および専攻科生には各自の将来のために自分自身について知ることを目的として、新版TEG IIを実施した。10月にいじめアンケートを実施し、記入のあったものについては、学生委員会を開催し、事実確認や学生指導、必要に応じてカウンセリング等個々対応した。	○ ○
		学生が、並びに教職員向け(メンタルヘルスを含めた学生支援のための)の講習会(研修会)を実施する。	学生が、正しい知識を身につけ、適切に対応する力を育成することを目的に、1年生合宿研修(5月)において、「スマホケータイ安全教室」を実施し、本郷C1年生(6月)及び射水C3年生(11月)には「薬物乱用等非行防止」について、射水キャンパス1年生(11月)及び本郷キャンパス2年生(7月)には「エイズ・性感染症の予防に関する健康教育」について講演会を開催した。また、交通安全講習会(5月)、運転免許取得学生・原付バイク通学生等対象、ネットモラル講習会、熱中症対策講座、薬物乱用防止に関する講習会も行った。また、1年生に学生生活にかかるトラブル回避のための啓発冊子を配付した。 後期に教職員を対象とした、カウンセラーあるいは精神科医による研修会を行う(予定)。学生のメンタルヘルスに関して学び、学生との接し方などを見つめ直すことなどを目的とする。	○
		教職員が各種メンタルヘルス関係の研修会に参加し、研鑽を積む。	6月児童生徒の自殺予防に関する普及啓発協議会(1人) 9月29年度東海・北陸地区国立高専専門学校学生支援連絡協議会(10人) 10月全国高専学生支援担当教職員研修(2人)	○

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
		他の高専のメンタルヘルスを含めた学生支援体制についての情報を集める。教職員が各種メンタルヘルスや学生支援に関する研修会に参加する。	高専機構本部主催の全国国立高等専門学校学生支援担当教職員研修や東海北陸地区学生支援連絡協議会に参加し他高専のメンタルヘルスを含めた学生支援体制についての情報交換・収集を行った。	○
		「東海・北陸地区学生支援連絡協議会」に参加し、意見交換、情報交換を行い、本校の相談室業務の参考とする。	9月開催の厚生補導主事関係会議及び学生課長会議、東海北陸地区学生支援連絡協議会に両キャンパスから相談室長、看護師が参加し、他高専の学生主事、寮務主事、学生課長、相談室長、看護師との情報交換により相談室業務の参考とした。	○
		両キャンパスにおいて、学生相談室の活動を充実させる。特に学生が利用しやすい相談体制を整える一環として、相談室と学生とが話し合う機会や場所を提供する。また、保護者に対しても学生相談室に関する情報を提供し、相談室を開放する。	本郷キャンパス 思春期外来の医師と学校医の契約を行い、必要な場合に相談できる体制を整えている。 3月及び4月に新1年生ならびに保護者に対し学生相談室のリーフレットを作成し、学校説明会やオリエンテーションで配布した。また、障がい者に対する合理的配慮の窓口として特別支援教育室および学生相談室を周知した。 4月及び10月の授業開始に合わせて、各クラスに相談室案内を配付し、周知した。 7月の保護者後援会学科別懇談会にて、保護者に対して学生相談室の活動などの情報を提供することで、保護者が利用できるようにした。また、保護者に対して、学校通信あるいはホームページで定期的に学生相談室の情報を提供している。 8月に全学生にKOSEN健康相談の連絡先を記載されている学生向けリーフレットを配布した。 射水キャンパス 精神科医と学校医の契約を行い、カウンセラーと連携しながら必要に応じて精神科医と相談できる体制を整えた。また、新1年生に対し学生相談室のパンフレットを作成し、オリエンテーションの際に配布することにより相談室が身近になるよう紹介した。各クラスには相談室のポスターを掲示し、相談室体制について周知した。また、保護者に対しては、4月と7月に学生相談室からのお知らせを配布し、相談室が保護者にも開放されていることを周知した。また、学生が相談しやすい環境を整備するために、現在の相談室の構成などを見直している。	○
		相談室のホームページを用いて、学生や保護者に相談室の情報を広く提供する。	広報戦略室と連携し、学生や保護者が相談室の情報を広く知ることができるように相談室のホームページを充実したものに改良した。	○
		KOSEN健康相談室のカウンセリングサービスについて、学生や保護者に周知する。	校内ポスターの貼付及びHPからのリンクにより周知を行っている。また、KOSEN健康相談室のカウンセリングサービスについて、機構からの配布物を学生に配布した。 8月に全学生にKOSEN健康相談の連絡先を記載されている学生向けリーフレットを配布した。	○
		両キャンパスの学生会を通して、福利厚生についての意見を取りまとめる。	両キャンパスの学生会が合同研修会を行い、5月の合同球技大会、9月の高専祭に関する意見交換を行った。	○
		学生との懇談会を開催して学生の要望を直接聞き取り、学生支援改善への参考とする。	学生会と連携して各クラス代表からなる評議会を定期的に開催し、学生からの要望・意見を聴取し、行事の実施等に反映した。 学生会役員と教員の打合せを定期的に行った。 学生会と後援会との懇談会を実施し、学生支援に関する意見交換を行った。	○
		学生の生活環境を充実させるため、両キャンパスの生活協同組合に学生の要望が反映する体制を整備し、出来ることから実施する。	各キャンパスの学生会から生協委員を選出し、生協理事会に参加した。	○
② ・寄宿舎の改修などの計画的な整備を図る。 A 学生の要望を把握し、自主的学習活動を支援する環境を充実させる。 B 学生寮の生活及び学習環境を整備するとともに、寮生数の推移に合わせ留学生専用スペースや校内共同施設への転用も考慮しつつ、改修計画を進める。 C 寮生やその保護者の要望を把握し、寮生の生活指導、学寮の管理運営等の改善に努める。	寮務主事	自主的学習活動を支援する環境を整備し、充実を図る。	低学年が入居している1・2号館に学習室及びパソコン室を設置することで、寮生が自主的に学習できる環境を整備した。	○
		学寮を整備し、有効活用について検討を進める。	本郷キャンパス 集会室棟及び寄宿舎4号館1階の改修を行い、多目的に使用できるスペースを整備した。 射水キャンパス 第3寮棟の2・3階の女子寮化に向けた整備の一部を行った。	◎
		食食委委託業者一括委託による食環境面の向上、物品の一括協同購入、契約などによる経費削減と環境整備に努める。	2キャンパスによる食食委委託業者一括契約を行い、食環境面の向上を図っている。また、7月に開催した寮生保護者総会時に合わせて保護者による検食会を実施した。	◎
		保護者連絡のための定期的な発行物を活用して、学寮の状況を報告するとともに、寮生や保護者から要望を聞くために、寮生組織の役員との懇談会や寮生保護者会等を開催する。	毎学期末に「学寮だより」を発行し、保護者へ学寮状況を報告している。また、保護者の意見・要望を聞くための寮生保護者総会を2回開催した。	◎

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
		成績不振学生に対するチューター等の学業支援を実施する。	定期試験前に上級生寮生が学業不振の寮生を中心に勉強を教えるチューター制度を実施し、学業支援を行った。	○
		幹部寮生研修会により他高専との交流を実施し、寮生会の運営をさらに改善する。	12月に舞鶴高専を訪問し、幹部寮生同士の交流会及び情報交換を実施した。	◎
③ 授業料免除制度や各種奨学金制度の積極的な活用を促進するため、学生や保護者へ情報を提供する体制を充実させる。 A 授業料免除や各種奨学金の情報を学生や保護者に周知する。 B 授業料免除や各種奨学金の相談体制を整える。	学生主事	授業料免除や各種奨学金の情報をHPと学校通信で周知する。	授業料免除に関する各種情報を、所定の場所に掲示するだけでなく、担任に依頼し教室にも掲示、並びにHP、学校通信に掲載することにより周知徹底させた。さらに、学生支援の強化のため、4年生については、前年度の就学支援金制度の家計状況を確認し、対象となる学生を抽出し、個別対応を行った。	◎
		新入生の保護者に授業料免除や各種奨学金の情報を周知する。	入学説明会時のお知らせ、掲示及び担任を通して周知した。	○
		授業料免除や各種奨学金の相談窓口を充実させる。	周知文書に学務課、学生課担当の窓口についても掲載した。また相談窓口の充実はもとより、説明会を年に数回開催し、気軽に相談できる機会を提供した。	○
④ 学生の適性や希望に応じた進路選択を支援するため、学生や保護者へ企業情報、就職・進学情報を提供する体制や進路指導体制を充実させる。 A 求人情報、大学編入情報を整備し、学生や保護者に情報提供する。 B 就業体験(インターンシップ)を奨励し、進路指導に活用する。 C キャリア教育の体制を整備する。	教務主事 進路指導室長	両キャンパスに設置した進路指導室の機能充実を図る。	進路指導室構成員にて、進路指導をより充実させるための検討や情報共有を行った。	○
		卒業生や専門家、及び本校シニアフェローによるキャリアガイダンスを実施する。	キャリア・就職専門家に講師を依頼し、610月～2月にかけて就職セミナーを計5回開催した予定である。すでに10月11日・18日の2回開催した。	○
		企業研究会を開催する。	学生の就職への関心を高めること、及び業界研究・企業研究を目的とし、技術振興会会員企業ご協力いただく企業研究会を11月16日に開催した。技術振興会会員企業109社、ならびに両キャンパスの3年生、4年生、専攻科1年生が参加した。	○
		引き続き、低学年のホームルームを利用してキャリア教育を実施する。	就職活動前の3年生を対象としたキャリアガイダンスを2月14日に開催予定である。2年生、3年生は10月27日に県内工場見学を実施した。富山県主催のものづくり女子育成事業(女子学生を対象とした工場見学)を9月13日(19名参加)、9月20日(27名参加)に実施した。富山県大学コンソーシアム主催の合同企業訪問が9月20日及び22日に実施され、9名が参加した。	○
		WEB求人票システム導入後の使用状況を把握し活用方法を検討する。	学生がWEB求人票システムをさらに活用できるよう周知方法を検討した。	○
		キャリア教育の観点から学生の職業意識の醸成ときめ細かい進路指導を行うため、学科内に4、5年担任とベテラン教員で構成する進路指導支援チームをつくり、定期的なミーティングを持ちながら情報共有し、学生指導を行っていく。	4・5年生担任及び学科長による学生への支援及び求人企業への対応等を行い、求人企業の情報を学生へ随時伝えた。各学科において、12月中旬に4年生保護者を対象とする就職・進学説明会を開催した。	○
⑤ 関係機関と協力して商船学科の船員としての就職率を上げるための取組を行う。	商船学科長	船員となったOBのキャリアガイダンスを実施する。	9月29日、日本郵船、蔵田機関長(本校OB)迎えて商船学科学生に対してキャリアガイダンスを実施した。	○
		海事業界で働くOBが学生に語りかける「キャリア講演会」を商船学科を有する五高専にて共同開催し、テレビ会議システムで商船学科の学生を参加させる。	「海事キャリア教育セミナー－海事技術者のワークライフ－」を、中学校の先生や保護者も参加できるようなものとし、12月12日に実施した。	○
(6) 教育環境の整備・活用				
① 総合的な施設マネジメント及び設備マネジメントの充実を図り、個性的で魅力のある教育環境の整備を図る。 A 「施設・設備の整備基本計画」を見直し、計画的な施設・設備の整備を図るとともに、効率的な運用に努める。	施設・設備整備委員会 委員長	施設・設備のマネジメントの充実を図り、「施設・設備の整備基本計画」を見直し、計画的な施設・設備の整備を図る。	本郷キャンパス 学内営繕事業として、学生の安全、安心の確保の観点から「女子寮の防犯機能の強化等」の整備を29年度実施した。 射水キャンパス 学内営繕事業として29年度中に「職員宿舎3・5・7号棟の解体撤去」、「第3寮棟2・3階の女子寮化に向けての整備」を行い、減損会計の推進及び教育環境・居住環境等の改善を図る予定である。また、第3寮棟2・3階の女子寮化に向けての整備として第3寮棟屋外非常階段の照明設備をLED照明器具へ更新し、省エネ推進を図り、玄関ホール、階段室、2階寮室の壁等の塗装補修を行う予定にしている。	○
		キャンパスの環境美化に努める。	両キャンパスにおいて教職員によるキャンパス・クリーン作戦を実施した。 計画的に校内の樹木剪定を行った。	○
② 産業構造の変化や技術の進展に対応した教育環境を確保するため、施設・設備のきめ細やかなメンテナンスを図り、施設改修、設備更新など安全で快適な教育環境の整備を計画的に進めるとともに、その有効利	施設・設備整備委員会 委員長 環境マネジメント委員会 委員長	施設の点検評価を継続的に実施し、緊急度の高い施設整備について、概算要求・営繕要求を行う。	施設・設備整備委員会において、施設の点検評価を実施し、施設・設備の整備基本計画に基づき、概算要求、営繕要求について審議し、要求を行った。	○

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
<p>用を図る。併せて、女性や身体に障害を有する者にも配慮する。</p> <p>A 既存設備を有効に活用するため、土地、建物及び主要設備の点検評価体制を整備する。</p> <p>B 安全で快適な教育環境とするために、施設の点検評価を行い、整備の緊急度が高い施設から順次整備に努める。</p> <p>C 省エネ、光熱水料費の縮減に効果的な施設・設備の整備に努める。</p> <p>D 授業等に支障のない範囲で地域住民に施設を開放し、活用を図る。</p>		<p>省エネ化対策方針に基づき省エネ、光熱水料費の縮減に効果のある施設・設備の整備について検討する。</p>	<p>本郷キャンパス 寄宿舎4号館1階、寄宿舎集會室の改修及び火災で焼損した実習工場フボ2復旧工事において、照明設備をLED照明器具へ更新し、省エネ推進を図った。</p> <p>射水キャンパス 第3寮棟2・3階の女子寮化に向けての整備の一部として第3寮棟屋外非常階段の照明設備をLED照明器具へ更新し、省エネ推進を図った。</p>	○
		<p>平成29年度中にPCB廃棄物の処理を終える。</p>	<p>両キャンパス共、29年度中には高濃度PCB及び低濃度PCBの廃棄物処理を行った。</p>	○
<p>③ ・学生・教職員の健康管理・安全管理を徹底する。</p> <p>A 事故件数ゼロを目指す。</p> <p>B 学生・教職員の健康管理等の体制を整備する。</p> <p>C 学生・教職員に対する労働安全衛生法、健康増進法、学生保護法等に基づく健康管理・安全管理を実施する。</p> <p>(ア)施設設備及び作業現場の安全管理について定期的に評価するとともに、改善状況を公表する。</p> <p>(イ)毒物・劇物の管理方法を検証し、改善が必要なものについては改善状況報告を義務付ける。</p> <p>(ウ)安全管理に関する講習会、研修会等を開催するとともに、外部の講習会等に教職員を派遣し、安全思想及び技術の啓蒙を図る。</p> <p>(エ)作業環境の安全・改善に結びつく事業の達成に対し顕彰する。</p> <p>D 教職員がバランスの取れた勤務体系となるために日常活動の見直しを図る。</p> <p>E 学生・教職員に対する人権擁護・ハラスメントの防止等のため、人権擁護等の啓蒙に関する講演会、研修会の開催及び相談体制を整備する。</p>	<p>学生主事 安全衛生委員会委員長 ハラスメント防止委員会委員長 施設・設備整備委員会委員長 環境マネジメント委員会委員長</p>	<p>安全衛生委員会において、教職員の健康管理・安全管理を徹底するための取組みを実施する。</p> <p>A 定期健康診断等の実施結果により健康状態を把握する。</p> <p>B 安全管理者、衛生管理者による職場点検を徹底し、指摘事項の改善及び件数の減少に努め、改善結果を公表する。</p> <p>C 教員・技術職員の安全教育に関する能力アップを図るため、各種の研修会・講習会に積極的に参加させる。</p> <p>D 産業医による健康相談を実施する。</p>	<p>安全衛生委員会において、教職員の健康管理・安全管理を徹底するための取組みを実施した。</p> <p>A 定期健康診断等の実施結果により健康状態の把握に努めるとともに受診率の向上に努めた。</p> <p>B 安全管理者、衛生管理者による職場点検を徹底し、指摘事項の改善及び件数の減少に努め、改善結果を公表することとした。年間を通して週1回校内全域を各定期巡視者が巡視を実施するとともに各キャンパスにおいて年2回校長、安全衛生委員会委員による校内巡視（本郷：4月17日、10月23日、射水：5月25日、10月12日）と改善指導を行った。</p> <p>C 教員・技術職員の安全教育に関する能力アップを図るため、各種の研修会・説明会に積極的に参加させた。</p> <p>D 各キャンパスで毎月1回産業医による健康相談を実施し、教職員の健康維持に努めた。</p> <p>そのほか次の取組みを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全管理計画の策定 ・健康診断の実施（本郷：6月12日、射水：9月11日） ・インフルエンザワクチン集団接種の実施（本郷：11月20日、射水11月20日） ・救命救急講習会の実施（本郷：7月28日、射水：6月13日） <p>(学生関係) 定期健康診断等の実施結果により健康状態の把握に努めた。新入生に対しては4種抗体検査を実施した。</p>	○
		<p>学生委員会、学生相談室、保健室において、学生の健康管理を徹底するための取組みを実施する。</p>	<p>学生主事室、学生相談室、保健室が情報共有し、学生の健康管理の徹底に努めている。また、学生委員会、学生相談室、保健室のみでなく、学科、体育教員を含めた一般教養で特別支援教育室会議を開催し、情報の共有を行うとともに、支援が必要な学生に対しては、個別対応にあっている。</p>	○
		<p>薬物・劇物の購入、使用廃棄までの適正な取扱や管理体制をこれまで以上に徹底し、改善が必要な場合は指導する。</p>	<p>毒物・劇物の定期検査を実施し保管状況を確認することで、管理の徹底を図っている。また、改善が必要な場合は指導を行い、危害防止のため適切に対処している。</p>	○
		<p>人権擁護、ハラスメント防止等のため、研修会等の計画的な実施を行う。</p>	<p>ハラスメント防止等のため、新任教職員に対する研修を実施するとともに、相談窓口の周知、防止啓蒙等を行った。</p>	○
		<p>教職員のメンタルヘルスのカウンセリング体制の充実化を進める。</p>	<p>昨年度から実施されたストレスチェック制度について、産業医から各キャンパスの集団分析結果の提示を受け、安全衛生委員会等において意見交換を行って、改善に努めた。</p>	○
<p>④男女共同参画推進のための環境整備を進める。</p>	<p>スマイルアップ推進委員会委員長</p>	<p>スマイル・アップ推進委員会を中心に、女性教員の増加を進めるための環境整備を行う。</p>	<p>スマイル・アップ推進委員会を中心に教職員ミーティングを開催して、環境整備などについて議論を行った。</p>	○
<p>2 研究や社会連携に関する事項</p>				
<p>① ・各教員の研究活動を促進し、その成果を教育に反映させる。</p> <p>・学科、キャンパスを越えたプロジェクト研究を推進する。</p> <p>・科研費の申請率を80%以上にする。科研費採択件数については新規採択件数10件以上ノ年を目指す。</p>	<p>校長 イノベーションセンター長</p>	<p>優れた外部教員を招へいし、本校教員の研究力、並びに外部資金獲得能力の向上を図る。</p> <p>研究環境の改善策を実施するとともに研究活動を推進させるための支援を行う。</p>	<p>30年1月18日の研究高度化フォーラムで、スイス、韓国から教授、研究者を招聘、学生、県内企業などを対象に講演を実施。</p> <p>毎年、教員が出す研究費の申請の中で、将来発展が見込め、有望な申請に対し、校長裁量経費によって支援している。研究期間が終了した時点で、成果報告会を2キャンパス合同で実施した。</p>	◎
		<p>教職員による研究会の開催を支援する。</p>	<p>8月に開催されたグリーンイノベーション研究会において、教員の研究事例を紹介する機会を設け、成果発信を行った。</p>	◎
<p>② ・本校の知的資源の活用とともに、地域社会のニーズ等の情報収集を行い、研究開発プロジェクト形成を促進する。</p>	<p>製品開発・社会貢献本部長 イノベーションセンター長</p>	<p>企業と連携し、製品開発のための実践的教育を企画する</p>	<p>製品開発セミナーを開催し、企業と連携した製品開発の事例紹介を行うと共に、本校の製品開発事例の紹介を行った。</p>	◎

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
<ul style="list-style-type: none"> ・地方公共団体との連携の強化を図る。 ・共同研究等については、30件/年を目指す。 ・地域イノベーションセンターにおいて知的財産サイクルをマネジメントできる人材を育成し、知的財産の一元管理を行う体制を整備するとともに、東海北陸地区の高専が連携して知的財産戦略を展開できる体制を整備する ・特許等出願については、6件/年を目指す。 ・製品開発本部において、企業のニーズに応える製品開発を進める。 ・製品開発本部において、企業のニーズに応える企業技術者教育を実施する。 ・製品開発本部において、企業及び教育技術センターとの連携のもと実践的教育を実施する。 	イノベーションセンター長 国際交流センター長 知的財産委員会委員長	<p>地域企業との連携を促進するための方策として、グリーンイノベーション研究会開催を検討し実施する。</p> <p>地域で開催される交流会・協議会や研修会・研究会に積極的に参加し、地域社会のニーズ等の情報収集を行う。</p> <p>県内の産学官による研究会の情報を教員に提供し参加を支援する。</p> <p>県内地方公共団体との連携事業の企画について検討を進める。</p> <p>富山県の公設研究機関(工業技術センター、農林水産総合技術センター等)との連携について検討を行う。また富山県新世紀産業機構からの情報収集や連携について検討を行う。</p> <p>東海北陸地区高専間での合同セミナーの開催や相互の講師派遣等を促進し、地区の連携活動を強化する。</p> <p>東海北陸地区国立高専知的財産協議会を開催し、今後も協議の場として有効に活用する。平成23年度に開設・公開した、東海北陸地区高専の持つ知財情報を公開するためのHPIについて、さらに内容の充実を行い、知財情報の有効活用や特許等出願の促進を図る。</p> <p>東海北陸地区高専が現在保有する知財の今後の維持管理の方針策定に資するため、知財の評価法に関する情報収集を行い、上記協議会などを通して共有する。</p>	<p>8月にグリーンイノベーション研究会を開催、参加者60名。</p> <p>富山県内で開催される展示会等に高専としてブースを出展、技術振興会会員出展企業等と連携して情報発信を行った。</p> <p>研究会の情報をデスクトップ、必要に応じてメール配信で周知した。</p> <p>富山県内企業、公設試等とすすめられているプロジェクトへの本校の参画を目指した見学会等を企画。学生による製品化の検討がスタート。自治体機関の委員への本校教員の参画等を通じた連携強化が今後の課題。</p> <p>富山県内企業、公設試等とすすめられているプロジェクトへの本校の参画を目指した見学会等を企画。学生による製品化の検討がスタート。自治体機関の委員への本校教員の参画等を通じた連携強化が今後の課題。(再掲)</p> <p>1月18日に研究高度化フォーラムで第3ブロック連携セミナーを、研究高度化推進室と連携して開催した。</p> <p>東海北陸地区から第3ブロックに地域の枠組が変更されたこともあり、知財協議会の開催はセンター長等会議に集約した。 また、高専ポータルやResearchmapへの移行に伴い、独自の情報発信をこれらポータルへ移行している。</p> <p>東海北陸地区から第3ブロックに地域の枠組が変更されたこともあり、知財協議会の開催はセンター長等会議に集約した。 また、高専ポータルやResearchmapへの移行に伴い、独自の情報発信をこれらポータルへ移行している。(再掲)</p>	<p>◎</p> <p>◎</p> <p>◎</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
③	イノベーションセンター長	<p>近隣大学、技術科学大学との教育研究連携活動を促進する。</p> <p>技術科学大学との応募型「高専連携教育研究プログラム」による共同研究」及び「高専・技術科学大学教員研究集会」を通じて、研究交流を活発化し、その成果の知的財産化を促進する。</p>	<p>研究高度化推進室の事業と連携し、第3ブロック高専との研究連携等を進めている。その成果の一部は1月の研究高度化フォーラムで発表し</p> <p>長岡、豊橋技術大との交流会に教員を派遣し、連携の構築を図った。(再掲)</p>	<p>○</p> <p>○</p>
④	製品開発・社会貢献本部長 ソリューションセンター長	<p>ソリューションセンターにおいて、地域中小企業が要望する製品の開発を行い、外部資金の獲得を目指す。これら活動を通して、地域社会において信頼される高等機関と認知されるよう努める。企業の要望を聞くための様々な機会、例えば5軸加工装置などの説明会、講習会を企画する。</p> <p>企業向けのWebシーズ集を充実させ、共同研究・受託研究のための情報を発信する。</p> <p>作成したシーズ集及び英語版パンフレットを有効に活用し、教職員シーズを企業や地域社会に広報する。</p>	<p>製品開発セミナーを開催し、5軸加工装置の説明会を行った。また、製品開発を目的とした受託研究に繋げるため、本校の製品開発事例の紹介を行った。</p> <p>Research mapについての研修会を開催し、Research mapへの情報登録・促進について研究者の理解を深めた。また、ホームページの各研究者個人情報頁から、Research map頁へ移動できるようにした。 さらに、より効果的な情報発信として、新たなWebシーズ集について検討している。</p> <p>技術振興会総会、並びに製品開発セミナー等を通して、本校教職員が有する研究シーズを企業、地域に発信した。 また、海外の研究機関・高等教育機関との連絡を密にし、研究・教育連携を推進するため、本校教員の英文研究テーマリストを更新した。</p>	<p>○</p> <p>○</p>
⑤	校長 教務本部長 ソリューションセンター長 イノベーションセンター長	<p>公開講座、出前授業、出前講座等を実施し、積極的に小中学校の理科教育支援を実施する。</p> <p>社会や企業の人材育成ニーズを調査し、企業と連携した「協働教育」として新たな企業人材育成プログラムを引き続き実施する。</p> <p>社会ニーズに合った内容の公開講座を企画・実施する。特に小中学生向けの公開講座は夏休み中のオープンキャンパスの期間に実施し、受講者がより参加しやすい形にしてゆく。社会人向けの公開講座では積極的に県民カレッジとの連携を図り、より広範な広報活動を行う。包括協定を結んでいる市と連携した公開講座が実施できるよう検討する。</p> <p>シニアフェロー等の外部人材が参画する研究会を企画検討する。</p> <p>企業人向けの研究会を企画実施していく。</p> <p>同窓会を始めとして本校独自のネットワークシステムであるシニアフェローの活用を計画する。</p>	<p>4件の公開講座、6件の出前授業を行い、小中学生向けの教育に支援を行った。</p> <p>富山機電工業会と連携し、特別授業「地域産業学」を開講し、企業人材に資する学生の育成を図った。</p> <p>夏休み中に、主に小中学生を対象とした公開講座4件を企画・実施した。また、オープンキャンパスの期間中に17件の中学生向け公開講座を実施した。</p> <p>シニアフェローが参画する研究会を引き続き企画検討することとしている。その一つとして、学生が行う研究発表時にシニアフェローから意見、アドバイスを受けることにより、学生に、研究を実践的、並びに客観的に眺める視点の重要性を指導することとしている。</p> <p>企業が必要とする技術的な知識を本校が提供し、企業の人材育成に繋がるセミナーを複数準備し、2件のセミナーの実施依頼があった。</p> <p>シニアフェローとの懇談会を行い、本校の活動に対する助言を受けた。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
3 国際交流等に関する事項				
①	副校長 国際交流センター長	海外の交流提携を結んでいる教育機関と国際会議を開催する等の積極的な交流促進を図る。	タイキングモンクット工科大学と来年度の国際会議共催に向けて協議を開始し、同大学主催のICEAST2018を共催することとなった。	○

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
<ul style="list-style-type: none"> 海外インターンシップ制度の充実に取り組む。 海外留学制度の充実に取り組む。 		<p>海外の交流協定校との海外留学、並びに異文化実習をより効果的なものとするため、昨年度の実施状況を元に参加者に対する事前学習を強化する方策を計画し、さらなる充実を図りながら実施していく。</p> <p>専攻科生や本科生を対象とした海外インターンシップのニーズに応じた最適化を検討するとともに就労体験を取り入れた専攻科用の海外インターンシッププログラムの環境を充実させる。</p> <p>海外インターンシップの事前学習のための環境を充実させる。</p> <p>高専機構が主催する国際交流事業に参加する。</p> <p>学生を海外に派遣する際の危機管理体制の構築を進める。</p>	<p>各学科、専攻科とも協力し、トビタテ！留学JAPANプログラムへの応募指導等を通じて、事前学習の強化を行った。特に安全に関する事前学習を強化した。</p> <p>タイ・マレーシアでの企業インターンシップ、ハンガリーでのアカデミックインターンシップを実施するなど、充実を図った。また、今後の内容充実のための折衝を各協定締結校等と行った。</p> <p>学生のニーズを踏まえ、タイキングモンクット工科大学でのアカデミックインターンシップ(1ヶ月)を新たに実施した。学生4名の参加があった。</p> <p>フェローの先生にご指導をお願いする等、事前学習のための環境を充実させた。</p> <p>特に安全に関する事前学習を強化した。</p> <p>国際交流室長・国際交流センター長会議への出席、機構からの依頼による訪問客の受入れなど、機構の国際交流事業に積極的に参加した。</p> <p>7月4-5日に実施された高専機構主催の国際交流室・国際交流センター長会議に教員1名が出席した。</p> <p>9月10-19日に実施された高専機構主催のファンリテーションスキル&インターンシップ経験英語研修に学生1名が参加した。</p> <p>高専機構国際交流センターの留学生支援(企画)プロジェクト長として、教員1名が協力している。</p> <p>高専機構本部海外展開事業(タイ)に協力支援校として参画している。</p> <p>危機管理に関するマニュアルを作成中である。</p> <p>本校が主催する海外派遣事業に参加する際の確約書のひな形を作成した。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学志望者が容易に本校の情報を得られるよう、ホームページの充実を図る。 学生寮の留学生居住領域の環境を整備し、受け入れ体勢の拡充の対応を進める。 留学生交流促進センターとの連携を強化し、留学生の受け入れを促進する。 	<p>寮務主事 国際交流センター長</p>	<p>学生寮の留学生居住領域の環境整備について検討を進める。</p> <p>海外の提携校からの短期留学生受入を確実に実施する。 ・シンガポール テマセクポリテクニク ・シンガポール ナンヤンポリテクニク ・タイ キングモンクット工科大学ラカパン校 ・英国北アイルランド SERC ・米国ハワイ KCC</p>	<p>4号館1階の改修を行い、留学生用居室・ラウンジ・補食室の整備を進めた。</p> <p>4月10日から6月30日の間、シンガポールナンヤンポリテクニクからの短期留学生4名を受入れた。</p> <p>6月5日から7月28日の間、タイキングモンクット工科大学からの短期留学生16名を受入れた。</p> <p>9月25日から12月15日の間、シンガポールテマセク・ポリテクニクからの短期留学生4名を受入れた。</p> <p>9月25日から12月23日の間、タイキングモンクット工科大学からの短期留学生2名を受入れた。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>③</p> <ul style="list-style-type: none"> 留学生に対し、我が国の歴史・文化・社会に触れる体験研修旅行を企画・実施する。 	<p>教務主事</p>	<p>北陸地区の他高専と連携し、留学生の体験研修旅行を実施する。</p>	<p>福井高専が主管で北陸地区高等専門学校留学生研修旅行に留学生、担当教職員が参加した。(北陸地区高専が持ち回りで主管)</p>	<p>○</p>
<p>4 管理運営に関する事項</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> 戦略企画会議を中心にして、戦略的な方針を提案する。 運営審議会での確実な意思決定を行う。 校長のリーダーシップの下、迅速かつ責任ある意思決定を実現する。 <ul style="list-style-type: none"> A 校長の補佐体制を整備し、学校の運営について企画・検討する。 B 校内の各種委員会を整理統合するとともに、諸規定を整備し、迅速かつ効率的な運営を行う。 資源配分は、戦略的かつ計画的に行う。 <ul style="list-style-type: none"> A 校内予算配分については、基盤的教育研究経費を確保しつつ、戦略的な配分方法を検討し、円滑な執行を行う。 	<p>校長</p>	<p>戦略企画会議において、戦略的な学校方針について検討し、学校運営に反映させる。</p> <p>運営審議会での確実な意思決定を行う。</p> <p>全教員会議及び両キャンパスの教員会議で学校方針の共有を図り、学校運営の的確な実施を進める。</p> <p>「予算委員会」において予算の戦略的、計画的な配分を行う。また、予算の執行状況を教員に周知し適正な執行に務める。</p>	<p>校長、副校長、校長特別補佐、事務部長等が週1回ペースで会合を行い、戦略的な事業の実施、学校方針に関わる問題に関して検討を行った。</p> <p>運営審議会を月に1回定期的に開催し、学校の戦略方針に基づく意思決定機関として、学校の管理運営及び規則等の制定・改廃等の審議、決定を行った。</p> <p>全教員会議及び両キャンパスの教員会議を月1回定期的に開催し、学校方針の共有化を図り、学校運営の的確な実施を進めた。特に、各キャンパス毎の開催であった教員会議をキャンパス合同開催とし、キャンパス固有の事項の情報共有化を図った。</p> <p>予算委員会では、校長を委員長とし、学校の運営方針が、校内予算により反映できる制度を整備している。校内予算の編成にあたっては、第2期中期目標期間の運営費交付金算定ルールに基づく効率化係数を踏まえ、対前年度比△2%以上の節減を図りつつ、校長のリーダーシップの下、機動的・戦略的な学校運営を行うために必要な予算を確保した。また、予算の執行状況を定期的に教員へ周知し、適正な執行に努めている。</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
		校長裁量経費等を、学校の方針に基づき、費用対効果の高い事業に対して執行する。	校長裁量経費は、校長のリーダーシップにより教育方法改善プロジェクト、研究プロジェクト、全校単位あるいは学科単位の行事、学生の実験・実習の基盤をなす設備の整備、学校運営や環境改善等に関する経費などへ重点的に予算配分を行った。	○
		学生、保護者及び教職員の意見を取り入れるための「意見箱」(Web版及び木箱)を活用する。	学生、保護者及び教職員の意見を取り入れるための「意見箱」(Web版及び木箱)を活用してきた。意見箱に寄せられた意見については「広聴室」で整理区分を行い、校長へ報告を行い、関係部署(各主事、事務部各課)と調整し、対応することとしている。また意見箱設置の周知方法を改善する予定。	○
② ・外部有識者による意見を学校運営に適切に反映させる。 ・東海・北陸地区及び中部日本海高専会議で、学校の管理運営の在り方について検討を進める。 ・「教員研修」や「管理職研修」に積極的に参加する。	校長	外部有識者による運営諮問会議を開催し、年度計画等を中心に学校運営に関し意見を伺う。	学外の有識者12名で構成する運営諮問会議を開催し、年度計画及びその実施状況について、教育研究活動、地域連携活動、学校運営の観点から助言、指導を受け、その内容を運営審議会へフィードバックし各担当部署で改善策を検討後、実施することとしている。	○
		第3ブロック校長会議、東海・北陸地区高専校長会議及び五商船高専校長会議で、共通する学校運営の課題等について協議する。	第3ブロック校長会議、東海・北陸地区高専校長会議、並びに五商船高専校長会議において、学校運営の共通課題等について協議した。	○
		高専機構が主催する管理職及び教員に対する研修等に積極的に参加する。	高専機構が主催する管理職及び教員に対する研修等に積極的に参加した。	○
		本校企画のSD研修を行う。	新任職員研修を行い、職務遂行上必要な知識を与え、高専職員として求められる役割・立場を明確にさせた。(4月3日)	○
③ ・事務の電子化、合理化、アウトソーシングを促進する。 A 機構による一元的な共通システムに基づき、業務手順・処理内容の見直し・マニュアル化を推進する。 B 情報システムを見直し、情報の一元化、内容及び手続きの簡素化を図り、使いやすくなりやすいシステムとするとともに、ペーパーレス化を推進する。	事務部長	高専機構の業務改善委員会等からの改善に関する意見等の提出要請には積極的に対応し、WG等の委員として事務職員の派遣要請がある場合は積極的に派遣する等の協力を進める。	高専機構の業務改善委員会WGのメンバーへの派遣要請があれば積極的に派遣に応じる予定である。	○
		高専機構による事務マニュアルの統一化、作成について積極的に意見を提出し、学校内での実施を推進する。	高専機構による事務マニュアルの統一化、作成について積極的に意見を提出し、学校内での実施を推進した。	○
		事務情報企画・推進室において事務情報のシステム化の企画・推進及びシステムの維持管理を行う。	事務用PCの更新を実施し、更新後のサポートを行っている。また、会議用タブレット端末を購入し、ペーパーレス化に向けた環境を整備した。	○
④法人の課題やリスクに対し組織一丸となって対応できるよう、研修や倫理教育等を通じて全教職員の意識向上に取り組む。	校長 危機管理委員会委員長	法人の課題やリスクに対し組織として対応できるよう、情報を共有し、職業倫理・法令順守意識の向上を図る方策に取り組む。	校長は、運営審議会、教員会議において、高等教育機関、並びに高専機構が抱える諸課題等について、説明をし、情報共有を図っている。また、学生・教職員の安心・安全を最優先とする方針を示し、教職員の意識向上を図っている。	○
		危機管理委員会を定期的に開催することで、危機管理の対応を統括する。	危機管理委員会を定期的に開催し、危機発生事案及びその対応について情報共有を行うことで経験を蓄積するとともに危機の再発・未然防止策について審議している。また、危機発生時の緊急連絡体制について検討を行い、教職員の連絡体制を整備した。	○
⑤法人本部の行う監査等に積極的に協力する。	校長 事務部長	校内監査は、牽制体制を十分確保して実施する。また、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等は、適切に対応する。	公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく校内監査は、公的研究費に関する内部監査マニュアルに沿って9月に実施した。	○
		公的研究費のガイドラインに対する取組を推進する。	新任教職員研修において、予算執行及び物品管理に関する留意事項について説明した。	○
⑥平成23年度に策定した「公的研究費等に関する不正使用の再発防止策」の確実な実施を徹底し、必要に応じて本再発防止策を見直す。	校長	校内監査は、牽制体制を十分確保して実施する。また、監事監査・内部監査及び高専相互会計内部監査の指摘・改善等は、適切に対応する。	公的研究費の管理・監査のガイドラインに基づく校内監査は、公的研究費に関する内部監査マニュアルに沿って9月に実施した。	○
		公的研究費のガイドラインに対する取組を推進する。	新任教職員研修において、予算執行及び物品管理に関する留意事項について説明した。また、公的研究費使用に関しての理解度チェックを行った。	○
⑦ ・事務職員及び技術職員の資質向上のため、文部科学省や高専機構主催の研修会に積極的に参加させる。 A SD研修や企業への派遣研修などの職員研修を進める。 B 事務職員及び技術職員の表彰制度を活用する。	校長 図書館情報センター長 事務部長	本校企画のSD研修を行う。	新任職員研修を行い、職務遂行上必要な知識を与え、高専職員として求められる役割・立場を明確にさせた。(4月3日) 事務職員を対象とした語学研修を行った。	○
		情報セキュリティに関する研修会を実施する。	両キャンパス教職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施した。	○
		技術職員の企画立案による技術職員研修会を実施する。	講演と演習・実習による研修会を行い、相互理解を深め、職務の充実を図った。(7月10日)	○
		高専機構、国立大学法人、並びに地方公共団体等が開催する事務等研修会に、職員を積極的に参加させる。その研修成果等について他の職員への共有化について検討する。	情報化委員の資質向上を図るため、国立大学法人等情報化委員研修へ職員を参加させた。研修後は、図書館情報センター会議にて研修報告を行った。	○
		教職員表彰要項により表彰制度の実施を進める。	本校教職員表彰の制度に基づき、教育、研究、地域連携、学生指導及び業務改善等の分野で特に顕著な功績をあげた者を、両キャンパスの教員が参加する教員会議の場で表彰した。	○

第3期中期計画 (富山高等専門学校)	実施担当	平成29年度年度計画 (富山高等専門学校)	進捗状況や課題	計画の達成 状況の評価
⑧ ・事務職員の資質向上のため、国立大学法人などの人事交流を図るとともに、必要な研修を計画的に実施する。 A 地域の国立大学法人等との人事交流を促進する。	校長	地域の国立大学法人等との人事交流を積極的に進める。	引き続き、地域の国立大学法人等との人事交流を積極的に進めた。	○
⑨ ・業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を適切に推進する。	校長 図書館情報センター長	情報セキュリティ研修会の実施、計画的に機器の更新を行うなど、業務運営のために必要な情報セキュリティ対策を引き続き適切に推進する。	29年度も、両キャンパス教職員を対象とした情報セキュリティ研修を実施した。(再掲) また、事務用サーバや事務用PC等を計画的に更新し、併せてソフトウェアのバージョンアップなど、引き続き情報セキュリティ対策を実施した。	○
II 業務運営の効率化に関する目標を達成するために取るべき措置	予算委員会委員長			
・運営費交付金の対象業務につき、教員の給与相当額等を除いて、中期目標の期間中、毎年度1%の業務の効率化を図る。 ・管理業務の合理化、人員管理の適正化等により、固定的経費を削減する。 A 業務委託内容等を見直すとともに光熱水料等の削減を教職員及び学生に徹底する。 B 執行状況の点検・分析を行い経費を抑制する。 C 教員の授業負担を見直し、非常勤講師経費の削減を図る。 D 経費の削減になる契約業務の効率化・合理化を図る。		一般管理費3%、その他の経費1%の効率化係数達成に向けた取り組みを進める。	29年度においては、機構からの配分が厳しく、年度計画以上の減額配分となった。	○
		業務委託内容の見直しを進め、両キャンパスで統一している業務委託の実施を継続し、固定的経費削減を進める。	スケールメリットを生かし両キャンパス分を一括発注するようにし、併せて複数年契約を進めている。また、契約時には、業務内容の見直しを行った。	○
		定期的に経費執行状況の把握を行い、予算の早期執行と適正使用並びに光熱水料等の削減とその実行を教職員へ周知徹底する。	予算の執行が年度末に集中することが無いよう執行額を適切に把握し、計画的・効率的に早期執行するよう周知した。	○
		両キャンパスでの教職員によるキャンパス・クリーン作戦の計画的な実施により、キャンパス整備経費の削減を図る。	教職員にキャンパス・クリーン作戦への参加を求め、広範囲を多人数で実施することで、キャンパス内の環境整備に係る経費の削減を図った。	○
		非常勤講師経費の削減を図る。	授業担当の状況に照らし、非常勤講師経費の削減について検討する。	○
III 予算(人件費の見積もりを含む、収支計画及び資金計画)	校長 製品開発・社会貢献本部長			
・科学研究費補助金や寄付金等の外部資金獲得に積極的に取り組み自己収入の増加を図る。 A 科学研究費補助金の新規獲得のための講習会を開催するなど対策を実施する。 B 地方公共団体や民間企業との受託研究、共同研究などの取組を積極的に推進する。 C 学生の奨学援助や国際交流のための寄付金を募集し、基金創設を図る。 D 製品開発本部において、企業のニーズに応える製品開発を進める。 E 製品開発本部において、企業のニーズに応える企業技術者教育を実施する。		製品開発・社会貢献本部において、企業からの要望に応じて製品開発を行い、その対価を外部資金として受け入れる。協力教員にはその一部を研究費として還元する。	ソリューションセンターにおいて、企業が要望する製品開発を支援している。また、製品開発セミナー(9月28日)を開催し、本校の製品開発事例を紹介し、企業の要望に応じた製品開発を行うことをアピールした。	○
		製品開発・社会貢献本部において、企業からの要望に応じて企業人教育を行い、その対価を外部資金として受け入れる。協力教員にはその一部を研究費として還元する。	企業の要望を受け、企業人向けのセミナーを1件開講し、その対価として外部資金を受け入れた。その一部を研究費として協力教員に還元した。	○
		外部資金獲得者及び応募者へのインセンティブ付与制度の確立を進める。	外部資金獲得者及び応募者へのインセンティブ付与制度の確立について平成26年度から間接経費等の配分等について改善を行っている。29年度も引き続き実施している。	○
		製品開発・社会貢献本部において、外部資金獲得に向けたバックアップ体制の確立を図る。	科研費獲得に向け、研究分野毎にグループ分けし、グループ内で申請書のブラッシュアップを行う等、バックアップ体制を充実した。また、研究の高度化、並びに共同研究の推進のため、定期的にコーディネーター会議を開催し、コーディネーターが受け付けた企業からの技術相談案件、共同研究申し込み案件を、専門性を考慮し適任の教員に担当を依頼した。	○
		学生への奨学援助の充実や学生の国際交流活動の促進に資するための基金創設の検討を進める。	学生の国際交流活動を助成するため、新たに創設された基金(アイベック奨学金等)を受け入れ、学生への奨学援助を充実させた。	○
		企業人向けの研究会を企画実施していく。	グリーンイノベーション研究会を開催し、企業技術者及び本校教職員による講演及び意見交換を行った(8月3日、1月18日)。また、企業人向けに製品開発セミナー(第5回)を開催し、製品開発事例の紹介を行った(9月28日)。	○
会計検査院から有効活用されていないと指摘を受けた下記の不動産の譲渡に向けた手続きを進める。 下堀団地(職員宿舎) 富山市下堀字上大道割85番39 外3筆 59 6.33㎡			学校として処分することで決定した当該不動産について、平成26年3月31日付で高専機構理事長から処分の承認がなされた。富山市に下堀宿舎団地の土地等の購入について検討を依頼していたが、平成27年3月31日で購入の見合わせの回答があった。不動産の境界確定、土地の来歴調査は終了している。不動産の処分については引き続き検討中である。	○